

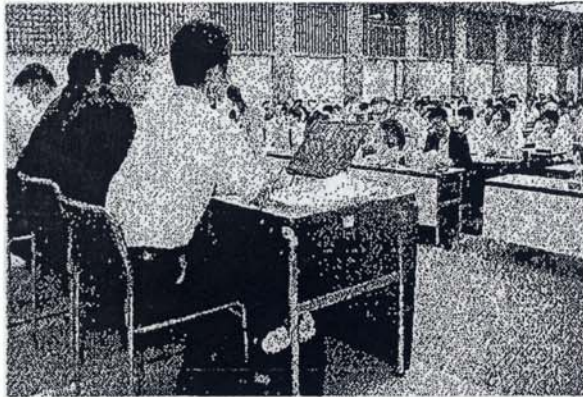
FG 三井住友 環境と経営リスクで セミナーを開催 東京・大阪で500人

三井住友フィナンシャルグループ（FG）は7月3日、環境問題への対策や企業経営へのリスクなどをテーマにした「環境セミナー」を三井住友銀行大手町本部（東京・千代田区）などで開催した。

同本部の様子をスクリーン中継した同行大阪本店（大阪・中央区）を合わせ、会場には取引先などから計約500人が参加。環境リスクの企業業績への影響や地球温暖化ガスの削減への展望についての講演、気候変動問題に対する金融機関の役割についてのパネル討論に耳を傾けた。

セミナーは、毎年1回開催しており、同行主催分を含め今回で6回目の開催となった。

講演者は日本総合研究所の足達英一郎・上席主任研究員と環境省の小林



温室効果ガスの排出権取引についても話し合われた環境セミナー（7月3日、東京・千代田区の三井住友銀大手町本部で）

光・大臣官房長の両氏。足達氏は「廃棄物や土壌汚染の問題、気候変動の進行などで、環境リスク

が企業業績を左右する状況は強まっている」と指摘。小林氏は将来の気温上昇シナリオに触れ「温暖化対策の強化は避けられない。一方、環境問題はビジネスチャンスでもあり、これをバネにした

経済発展に向けての取り組みを」と語った。討論では、環境省や国際協力銀行、ブラジル三井住友銀行などの担当者らが、クリーン開発メカニズム（CDM）や温室効果ガスの排出権取引など、それぞれの取り組みや具体例を提示。会場から寄せられた質問にも応じ、相互に気候変動とその対応策について理解を深めた。